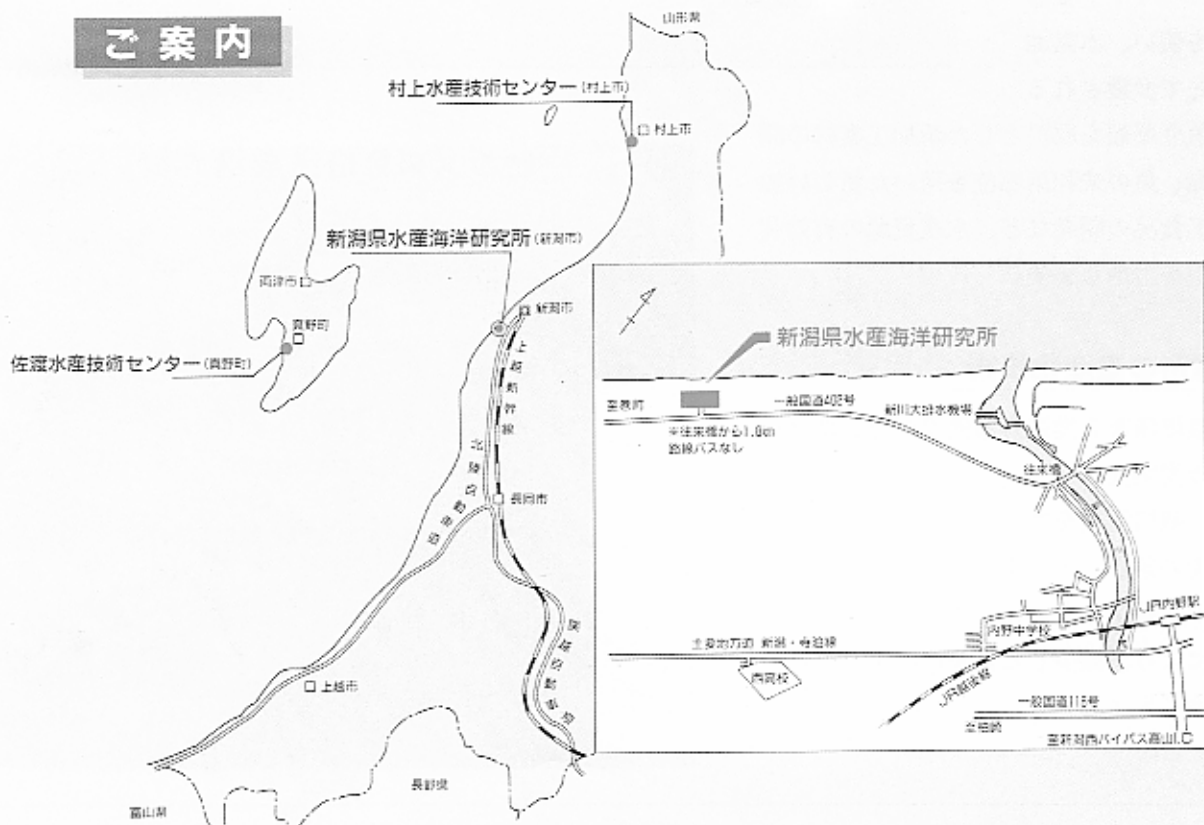


◆ 水産海洋研究所組織図 ◆

(主な業務内容)

所長	総務課	人事、会計、財産管理、他課に属しないことなど全体の事務を行っています。 (TEL.025-261-2041~2 FAX.025-261-0335)
	漁業課	漁具・漁法の改良により、小型魚介類を保護する資源管理、浮魚類やサケ・マス類の漁況を予測し、漁業者への情報提供、漁業指導船の運行、管理を行っています。 (TEL.025-261-2043)
	漁業指導船 越路丸 (新造)	日本海沖合の海洋調査、漁場調査、資源調査、国際共同研究などを行っています。
	漁業指導船 苗場	本県沿岸域の海洋調査、資源調査、漁場造成調査、海洋環境保全研究などを行っています。
	海洋課	漁業者への海況・漁況の情報提供、底魚類資源管理のための調査・研究、漁獲許容量や漁場環境保全のための調査を行っています。 (TEL.025-261-2044)
	増殖工学課 (新設)	バイオテクノロジーを駆使して、優良形質魚、優良藻類を作出する増養殖技術の開発研究、遺伝子解析手法を使った遺伝的集団構造の研究を行っています。 (TEL.025-263-7333)
	栽培技術課 (新設)	ヤナギムシガレイなど本県特産種の種苗生産のための基礎的試験研究とヒラメ等の種苗の放流技術開発研究を行っています。 (TEL.025-263-7334)
	加工課	本県地先で漁獲される魚介藻類の各種加工製品の開発、新しい素材による新商品の開発、水産加工廃棄物の有効利用法の開発を行っています。 (TEL.025-261-2045)
	佐渡水産技術センター	ヒラメ、クロソイ、クロアワビなどの優良種苗の量産化研究とこれらの大量生産、放流を行っています。 (TEL.0259-55-2630 FAX.0259-55-4165)
	村上水産技術センター	アユの優良中間種苗とモクズガニの優良種苗の量産化研究と、これらの大量生産、放流を行っています。 (TEL.0254-53-3843 FAX.0254-52-1389)

ご案内



新設課紹介

栽培技術課の研究内容

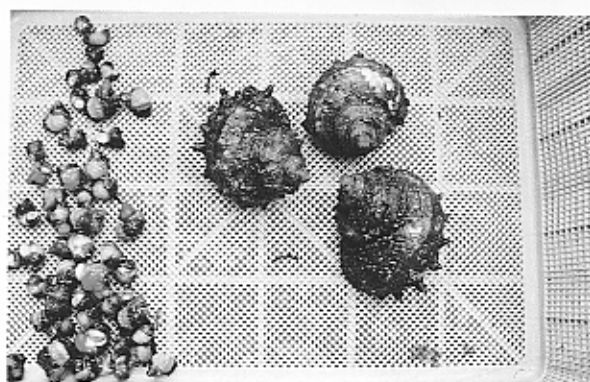
栽培技術課

1. 新魚種種苗生産技術開発研究

本県では既に、佐渡水産技術センターにおいてヒラメをはじめとする各種の種苗生産技術が確立されておりますが、当課では、既存の栽培対象種に続いて、新しい魚種を取り上げて種苗生産技術、中間育成技術及び種苗放流技術の基礎的技術開発を行うことになりました。最初の対象種としてヤナギムシガレイを取り上げ、平成8年から12年の5ヶ年間を研究期間に設定しております。

2. 放流効果調査

栽培漁業技術は、種苗生産、種苗量産、中間育成及び放流技術に大別されます。これまでこれらの技術開発は、佐渡水産技術センター（旧栽培漁業センター）で行ってきましたが、このうち、放流技術（放流効果調査）の分野をセンターから分離して当課が担当することになりました。現在ヒラメ、クロソイ、サザエを調査対象種として、標識放流と標識個体の再捕調査を行っています。



新設課紹介

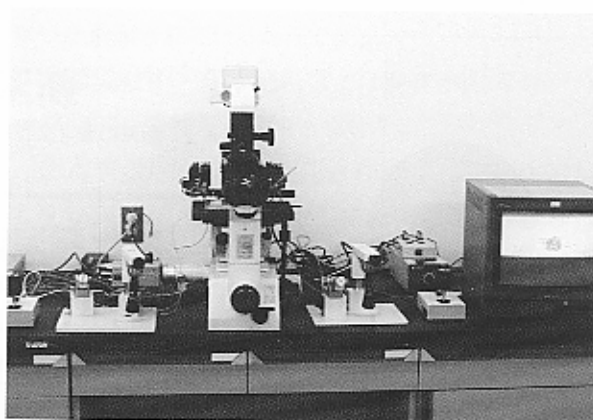
増殖工学課の研究内容

増殖工学課

増殖工学課の業務は水産動植物の生理・生態・栄養代謝および遺伝・育種に関する基礎研究と、海面増養殖生産へ応用するための場の物理化学的および生物・生態学的な環境を調査分析することに大別できます。従来から行っている栽培対象種の資源増殖的な調査（増殖場、藻場造成）に加えて、今年度から優良ヒラメの遺伝育種の問題と、沿岸の海藻類増養殖に必要な技術の開発に取り組むことにしました。海藻類ではモズクとエゴノリを、魚類ではヒラメおよびウスメバルを、ほかに軟体動物のミズダコについて研究を行っています。特に生物工学的な研究開発に必要なDNA分析関連機器をはじめとして、細胞融合や培養機器およびマイクロマニピレーター装置、電子顕微鏡装

置を導入しました。

課員は現在4名と少数ですが、沿岸魚介藻類の生産技術の開発に全力をあげて取り組んでおります。



漁業調査指導船「越路丸」竣工について

漁業課

当研究所の旧「越路丸」(156.48トン、1000ps、昭和53年3月竣工)は、老朽化・旧式化により、今後求められる迅速・高度なデータの収集・解析が困難となり、代船建造が進められました。

平成8年3月1日に竣工しました本船の特徴は以下のとおりです。

全長	42.52m
幅	7.40m
深さ	3.20m
総トン数	187トン
航海速力	約13ノット
主機関	1,500ps 1基

主な設備はCTD測定装置(水温・塩分濃度)、多層式超音波流速計(潮流向、流速)、表層生物モニタリングシステム(浮遊プランクトン量)、

クロロフィル自動測定装置(クロロフィル濃度)、計量魚群探知機、海底地形探査装置などの観測機器と得られたデータをコンピューターに送り、解析処理できるシステムを備えています。

また、操船や機関部などの自動制御・遠隔制御を可能な限り進めました。

このような立派な新「越路丸」が本県のみならず、日本海の漁業の発展に大きく貢献していくことを念願して止みません。本船建造に当たられました建造委員、関係各位に御礼申し上げます。



編集後記

平成8年4月1日付けで、機構改革が行われ、「水試だより」も「水海研だより」として生まれ変わることになりました。ところで、漁業を取り巻く状況は一段と厳しさを増しています。この厳しい状況を克服するために、水産海洋研究所も漁業者のみならずとも仕事を進めて参ります。

この「水海研だより」も漁業者のみならずとも

海研を結ぶパイプ役として、よりわかりやすく、読みやすい、役に立つ情報誌とするように編集委員一同努めて参ります。以前にも増して一層のご支援、ご愛読をよろしく願いいたします。紙面につきまして、ご意見、ご希望などがございましたら、お気軽に下記連絡先までお寄せください。

新潟県水産海洋研究所

〒950-21 新潟市五十嵐3の町13098-8番地 TEL025-261-2041~5 FAX025-261-0335
TEL025-263-7333~4



新潟県

新潟県水産海洋研究所 佐渡水産技術センター

〒952-03 新潟県佐渡郡真野町大字豊田字濱2082 TEL0259-55-2630 FAX0259-55-4165

新潟県水産海洋研究所 村上水産技術センター

〒958 村上市瀬波温泉3丁目5番11号 TEL0254-53-3043 FAX0254-52-1389